

第3章 製品と商品と加飾と市場

日本の現代を生きる人には、たくさんの製品が供給されています。ちょっとお考えください。毎日の消耗品は、ごく簡単にコンビニやスーパーで買うことができます。欲しい本は、インターネットショップで検索して、発注すれば翌日には手元に届きます。お昼のおべんとうは、日替わりで飽きないように工夫され、そして職場の机の上に届きます。

これらは、いわば、全て効率的な工業システムを活用して生産されたであろう“製品”でしょう。みなさま、この“製品”とはどのようなものとお考えでしょうか。そして、似たような概念かもしれませんが、“商品”とはどのようなものをお考えでしょうか。

一般的な理解を推察しながらまとめるなら、“製品”とは、主に工業などの分野において、労働力と設備を用いて、原材料を加工して作り上げたものをいうと思います。このようなものは、工業を主な活動としている企業では、最終的なアウトプットでしょう。

では、“商品”とはどのようなものでしょうか。“商品”とは、経済活動において、生産され、交換され、消費されるものや財物などでしょう。ここでいうところの“商品”には、サービスも含まれるものと思います。

これら、製品にも、商品にも加飾が施されるでしょう。例えば、デジタル情報デバイスでは、その構成部品には塗装が施されているでしょう。一部はメッキされている部分や、製品もあるでしょう。もしかすると、アニメのキャラクターが描かれているかもしれません。アイドルの写真や、ムービースターが描かれているかもしれません。アイドルのファンであれば、描かれている絵や写真は、代え難く欲しいものであるかもしれないのです。